

高等学校第2学年普通科Fコース 英語科学習指導案

日時 平成 年 月 日()

指導者 教諭 菊池 文

1 単元名 Lesson 8 Interview with a Referee: Oiwa Mayumi

使用教科書 New English Pal II New Edition(桐原書店)

2 単元について

(1) ねらいについて

大岩真由美さんは、日本の女性では発の日本サッカー協会認定1級審判の資格を取得し、FIFA(国際サッカー連盟)認定国際女子主審であり、国内外の試合で主審を務めるサッカー審判員である(当時)。本課では彼女とのインタビュー形式で、主審の仕事・主審に求められることや彼女の夢を紹介している。好きなことを見つけ生き生きと仕事をしておられる大岩さんの姿は、将来の進路を考える生徒たちに大きな励ましになるのではないか。本課をとおして、国際試合で笛を吹く大岩さんが発する希望に満ちたメッセージを受け止めて欲しいと考える。

(2) 生徒の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- ワークシートを配布し活用する。
- ペアワーク活動での英単語の音読に取り組みさせることで、英語を発音することに自信を持たせたい。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・ 導入の課題提示ではテレビ画面だけではなく、手元でフラッシュカードも使い、生徒の集中を持続させる。また文法学習のパターンプラクティスではICT機器を用い、英語のインプット量を増やしスピーディーに楽しく学ぶ雰囲気を出すといった使い分けをする。

3 単元の目標

サッカー審判員の仕事を知り、スポーツ競技を別な側面から見ることができる。そして大岩さんが小さな挑戦を繰り返し、その積み重ねで世界へ通じる大きな扉を開くことになったことを読み取り、自分の夢を諦めないことの大切さを学ぶ。また、関係副詞 when の用法と It is ... for- to do を用いた表現について学ぶ。

4 単元の評価規準

- ア コミュニケーションに関心を持ち、積極的に英語で発言し、主体的に課題に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- イ 本文の内容を十分に理解しその内容をワークシートに表現することができる。(表現)
- ウ 関係副詞と It is … for- to do 構文を運用することができる。(知識・理解)

5 指導計画及び評価基準(8時間取扱い)

イントロダクションおよび英単語の意味調べ	1時間
本文p 70	1時間
本文p 71	1時間
本文p 72	1時間(本時)
内容理解および新出文法の理解	2時間
まとめおよび練習問題	2時間

6 本時の展開

- (1) 目標
- ア 本文の内容を理解する。
 - イ It is … for- to do の構文を使って英文を作ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動・内容等	指導上の留意点・評価 T1:メインティーチャー T2:サポートティーチャー	備考 ICT活用
導入 8分	1 挨拶。 2 月日・曜日・天気を言う。 3 T1とT2のやり取りを聞いた後、T2ができない内容を英語で発表する。 (T1)(イタリア語の「こんにちは」を見せながら) Can you read this? (T2)Yes, I can. (T1)(ハングル文字の「こんにちは」を見せながら) Can you read this? (T2)No, I can't.	2 教師(T1, T2)が例を示し、発言を促す。 3 英語を聞いて理解できるよう、ヒントやジェスチャーで理解を助け生徒の発言を促す。	フラッシュカード
		・評価【関心・意欲・態度】 基準ア コミュニケーションに関心を持ち、積極的に英語で発言している。(行動観察・発言)	

	4 ターゲットルールと読み取りのポイントを知る。	4 T1とT2の会話の内容を日本語でまとめ、本時のポイントを知る。	パソコン TV
<p>ターゲットルール：It is easy for her to read Italian. It is hard for her to read Korean. 読み取りポイント：大岩さんの読者へのメッセージとは何か。</p>		<p>・評価【関心・意欲・態度】 基準ア コミュニケーションに関心を持ち、積極的に英語で発言し、主体的に課題に取り組むことができる。(行動観察・発言)</p>	
展開 40分	<p>5 一斉音読で新出単語句を発音し、ペアワークで音読練習をする。</p> <p>6 学習シートへ本文を記入する。</p> <p>7 本文を聞いた後、本文の一斉音読をする。</p> <p>8 和訳の空欄に適語を記入する。</p> <p>9 読み取りポイントに答える。</p> <p>10 不定詞の名詞的用法を思い出し、It is・・・for～to doの構文を知る。</p> <p>11 構文を使って英作文し発表する。</p>	<p>5 発音に留意させ、ペアワークを机間巡視で支援する。(T1, T2)</p> <p>6 学習シートの配布と学習活動の内容を日本語で指示しながら机間巡視する(T2)。本文を板書する(T1)。</p> <p>7 ゆっくりと読み方を示しながら(T1)声をしっかり出すよう促す。(T1, T2)。</p> <p>8 机間巡視しながら活動内容を日本語で指示してまわる(T2)。机間巡視で理解度を確認する理解度を確認する(T1)。</p> <p>9 学習シートに答えを記入するよう促す(T1, T2)。</p> <p>10 プレゼンテーションソフトで例文を示す(T1)。</p> <p>11 英作文に挑戦するよう励ます(T1, T2)。</p>	<p>新出単語の句のフラッシュカード</p> <p>CD</p> <p>パソコン TV</p>
終末 2分	12 まとめと予告を聞く。	12 学習内容の確認と次回の予告をし、ワークシートを回収する。	
<p>・評価【知識・理解】 基準ウ It is・・・for～to doの構文を運用できる。(発言・学習シート)</p>			